

3歳児・園児視覚検査に必要な検査用具です。

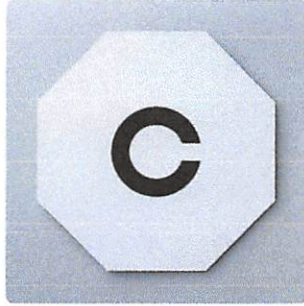
ランドルト環 単独視標 5m用(3m用もあります)



ハンドル

はんだや(HP-5045)

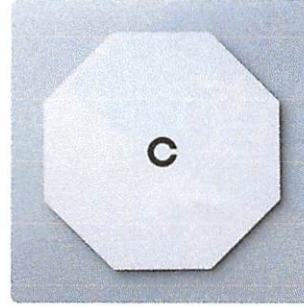
子どもが方向を伝えるために手に持って使用します。



0.1(アクリル)

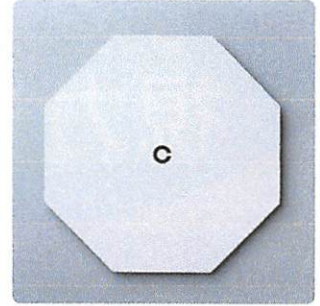
はんだや(5044)

5m離れた場所で手に持って、子供たちに見せるためのランドルト環です。縦や横の向きを明確に示すことができる八角形の形状で、裏側にはそれぞれの視力が記載されています。



0.3(紙製)

はんだや(5046)

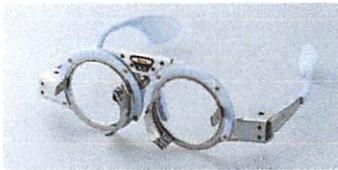


0.5(紙製)

はんだや(5046)

3歳児視覚検査、園児視覚検査に必要なランドルト環

3歳児	ハンドル	0.1	0.3	0.5	-
園児	ハンドル	0.1	0.3	0.7	1.0



検眼枠
カラーシンプル
ブルー/ピンク
OBC(PD50)



反対側の目の筋肉がいつもとちがう動きをしてしまうと正確な検査ができません。検眼枠を使えばごく自然に片目だけのもを見ることができます。子供たちに人気のあるブルーとピンクのフレームを用意しました。



検眼用黒板
黒板 3N
イナミ(3N-1)
※検眼枠にはめて使用します。

園児のための
視力検査

参考初期投資額 1セット 約11,500円

その他の検査用具もご用意できますのでお気軽にお問い合わせください。

眼科器具に関するご注文・お問い合わせ

協和医科器械株式会社 <http://www.kyowaika.co.jp/>

[本社営業部] 静岡県静岡市駿河区池田156の2 TEL.054-655-6608 FAX.054-265-7740

静岡県内のどの地域でも対応いたします。

その他の地域の方は眼科医または地元の医療機器販売会社へご相談ください。

その子の目に映る世界は、
6歳頃までにつくられます。

園児のための 視力検査

弱視の治療に立ちはだかる6歳の壁。

人は生まれた瞬間から少しずつ視力が発達し、3歳になる頃には成人に近い視力に達し、6歳頃までに完成します。つまり、視力は体の成長よりも早く発達しているのです。幼い頃の目は感受性がとても高く、この期間に視力の発達が阻害されると弱視になる場合があります。弱視は視力が完成する6歳頃までに治療しなければ、生涯にわたって改善することができません。弱視は眼鏡やコンタクトレンズを使っても矯正することができないため、その子の一生のためにも、早期に発見してあげることが大切なのです。

幼稚園・保育園で実施していただきたい 3歳児視覚検査

子供は、自分に見えている世界を、 他人と比べることができません。

幼い子供たちは「視力」という概念を持っていません。他人と自分が見ているものが違うことを理解することができず、目の障害が見落とされてしまうことも少なくないのです。子供たちが自分にできる方法で、見えているものを伝える機会や検査用具を用意してあげてください。正しい方法で視力検査を行えば、子供たちの障害に、気づいてあげることができます。



指差しが難しい3歳児の検査では、ハンドル状のランドルト環を使います。先生と同じ方向に回してもらうことで、見え方を確かめていきます。



コミュニケーションを
とりながら、
楽しく、遊び感覚で。



5m (3mでも可)

5mの距離に視標を持ちます。3m用のランドルト環を使用すれば3mでも構いません。園児を座らせて、視標は園児の目の高さを持つてください。



視標は前後に動かさないように。方向を変えるときは、裏返してからくりと回します。



顔をまっすぐに向けて、反対の目をつぶったり細めたり、抑えたりしないようにします。

園児の視力検査に関するご相談・お問い合わせはお近くの眼科医まで。

YouTube

園児のための視力検査

「園児のための視力検査マニュアル」は公益社団法人 日本眼科医会または医療法人社団 橋桜会 さくら眼科のホームページからダウンロードできます。

【監修】医療法人社団 橋桜会 さくら眼科 院長 松久充子 (静岡市葵区沓谷5丁目7-4 <http://www.sakura-shizuoka.jp/>)